

# 長期停止相次ぐ 政府構想と乖離

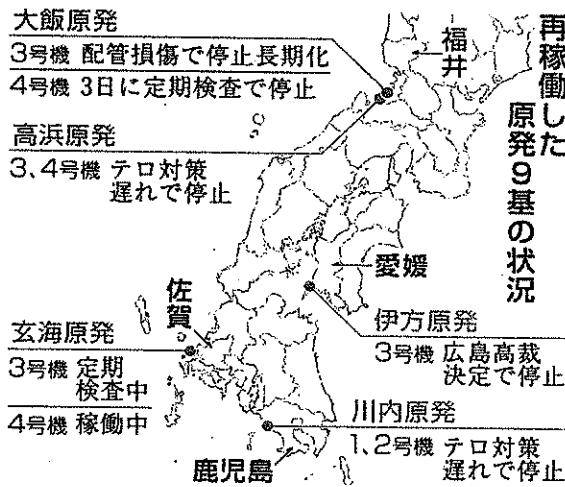
## 県内稼働原発ゼロ

関西電力大飯原発4号機（おおい町）が三日、定期検査に入り、国内の稼働原発は十一月下旬まで九州電力玄海4号機（佐賀県）一基のみとなった。テロ対策施設の完成遅れなどで予定外の長期停止が相次いだため、不安定な稼働状況は、原発を「重要なベースロード電源」と位置付ける政府の構想とは大きく乖離している。＝面参照

稼働原発がゼロとなった。説明を要求。関電にとつての誤算は、定 関電は同じ材質で模型を検中の大飯3号機で八月末 作って配管の強度などについて見つかった配管の損傷 いて説明を試みよとされた。関電は当初、このまま が、その手法の妥当性を巡って規制委側との議論に時運転しても配管の健全性は 間がかかる見通しとなった保たれると主張し、計画通 ことから、一転して配管を指したが、事態を重く見た 切り出して交換すると表明原子力規制委員会が詳細な した。

## 配管の交換 関電に誤算

配管には放射性物質を含む一次冷却水が流れるため作業員の被ばく管理も必要となる。関電は来年一月までの工事完了を目指す、規制委の更田豊志委員長は「切断後は溶接もある。作業はそんなに簡単ではない」との見方を示し、運転再開の見通しは立たない。大飯3、4号機の他に新規制基準の下で再稼働した四原発七基のうち、関電高



浜3、4号機（高浜町）と九電川内1、2号機（鹿児島県）は、今年三月に設置期限を迎えたテロ対策施設を完成させられず停止中。高浜では、二〇一六年二月に再稼働した4号機が、三日後にトラブルで緊急停止したこともあった。同三月には大津地裁が3、4号機の運転差し止めの仮処分決定を出し、当時運転中だった3号機も停止に追い込まれた。二基の停止は大飯高裁が仮処分を取り消した一七年まで続いた。

四国電力伊方3号機（愛媛県）を巡っても、今年一月に広島高裁が差し止め決定を出し、四国電が異議申し立て中。決定が覆っても、テロ対策施設の完成が来年三月の期限を過ぎた同十月ごろとなる見通しで、運転できない状態は続く。政府はエネルギー基本計画で、三〇年度の総発電量

に占める原発の割合を20、22%にするとの目標を示しているが、東京電力福島第一原発事故以降、低迷が続き、一八年度は6.2%。計画見直しに向けて先月開かれた経済産業省の会合では、三〇年度の比率について「現実を見据えた下方修正が必要だ」との意見が出た。委員の橋川武郎国際大教授（エネルギー産業論）は「三十基が稼働率八割で動かないと20、22%にならない。二十一二十五基が七割で動くと15%になるが、それでも甘い想定だ」と強調。五〇年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにするとの政府目標に向け、より積極的な原発推進への期待も経済界や政府、与党内にあるが、橋川氏は「脱炭素の主要な手段は再生可能エネルギーで、原発は補完的な電源だ」と指摘する。